

国際貨物便計画、8%増の週551便

■26年夏季スケジュール、東アジアなど堅調

国土交通省がまとめた2026年夏季スケジュール（26年3月29日～10月24日）の日本発着国際線貨物便運航計画は、25年夏季スケジュール比8%増の週551便となった。韓国や台湾、香港など東アジア線の貨物便の増加が目立った。半導体関連貨物などの堅調な荷動きが要因の一つにありそうだ。米国本土方面の貨物便計画も増加基調を示した。国際線旅客便（全方面）は4%減の5445.5便。旅客便と貨物便を合わせた国際線定期便全体の計画は3%減の5996.5便だった。

国土交通省が26年夏季スケジュールの事業計画について、128社（日本企業8社、外国企業120社）から申請を受け、3月16日から27日にかけて認可した。3月27日時点での夏季スケジュール第1週目（3月29日～4月4日）の計画便数が対象で、スケジュール中に増減などがあり得る。増減の比較対象である25年夏季スケジュールの便数も当初計画便数となっている。2月末の中東情勢悪化の影響による欠航・運休などは計画には反映されていない。

26年夏季スケジュール全体を見ると、国際線旅客便で中国線が大幅に減少したが、韓国をはじめとする東アジア線、欧州線の旅客便が増加傾向にあり、全体計画を押し上げた。

2026年夏季スケジュールの日本発着国際線定期便計画（方面別）

発着便方面	旅客便と貨物便の合計（週間）	旅客便	貨物便
アジア・オセアニア	4,943.5便(5%減)	4,582便(5%減)	361.5便(4%増)
米州	686.5便(3%増)	556便(微減)	130.5便(15%増)
欧州・中東・アフリカ	338.5便(8%増)	307.5便(8%増)	31便(11%増)
その他	28便(12%増)	0便(—)	28便(12%増)
合計	5,996.5便(3%減)	5,445.5便(4%減)	551便(8%増)

※（ ）内は25年夏季スケジュール当初計画比増減

国際貨物便は、韓国線が14%増の50便、台湾線が13%増の38便、香港線が7%増の58便など。米国本土線は15%増の130.5便、欧州線は4%増の26便と堅調な計画となった。国際線旅客便は、中国線が53%減の597便にとどまった。韓国線は22%増の1595便、台湾線は12%増の732.5便、香港線は7%増の535.5便。東南アジアは、タイ線が8%増の275.5便、ベトナム線が4%増の

172.5便、マレーシア線が12%増の90.5便など。引き続き堅調なインバウンド需要が運航計画を押し上げたとみられる。

日本企業、外国企業の計画便数の内訳は、日本企業（8社）が3%増の1379.5便（旅客便が4%増の1237.5便、貨物便が1%減の142便）、外国企業（128社）が5%減の4617便（旅客便が6%減の4208便、貨物便が11%増の409便）。